

09 当センター病院における下肢装具処方の実態調査 —第1報—

研究所 義肢装具技術研究部 中村康二、中村隆、阿久根徹

【はじめに】当センター病院における下肢装具処方について、十分な調査はされていない。今回、当センター病院の下肢装具処方の実態調査を行ったので報告する。

【対象と方法】2018年4月～2019年3月に、当センター病院で下肢装具に関して専門外来(装具診)を受診した者を対象とし、受診者の個人因子と機能因子および処方された下肢装具に関する情報を収集、解析した。また、近隣6カ所のリハセンター(埼玉リハ、千葉リハ、栃木リハ、横浜リハ、神奈川リハ、長野リハ)を比較対象とした。統計学的検定にはStudentのt検定と χ^2 検定を用いた。

【結果】調査の結果、当センター病院の対象者は80名であった。当センター病院および近隣のリハセンター(6カ所合計)の対象者の基本属性を表1、診断分類を図1に示す。当センター病院の対象者は平均年齢が有意に高かった($p < 0.01$)。近隣のリハセンターでは、骨関節疾患、脊髄損傷、ポリオの割合が各2%未満、合計4.2%であったのに対し、当センター病院ではいずれも10%以上、合計40.8%で、有意に高い割合であった($p < 0.01$)。また、脳性麻痺を原因疾患とする対象者の平均年齢は、当センター病院の方が有意に高かった($p < 0.01$)。

【考察】今回の調査により、下肢装具の処方に関して当センター病院は、近隣のリハセンターと比較して、骨関節疾患、脊髄損傷、ポリオを原因疾患とする者の割合が高いという特徴を持つことが明らかとなった。また、対象者全体および脳性麻痺の平均年齢が優位に高かったが、その理由としては、近隣のリハセンターの中に小児を主な対象とする施設が含まれていたことが考えられる。今後は、障害者の機能因子と装具処方の関係を明らかにすると共に、縦断的な調査も行っていきたい。

表1 基本属性

	当センター病院	近隣のリハセンター(6施設合計)
人数	80名	605名
性別	男性:42名 女性:38名	男性:395名 女性:209名 不明:1名
所属	外来:75名 入院:5名	外来:499名 入院:88名 不明:18名
平均年齢(SD)	55.6(±20.1)歳	33.2(±25.7)歳

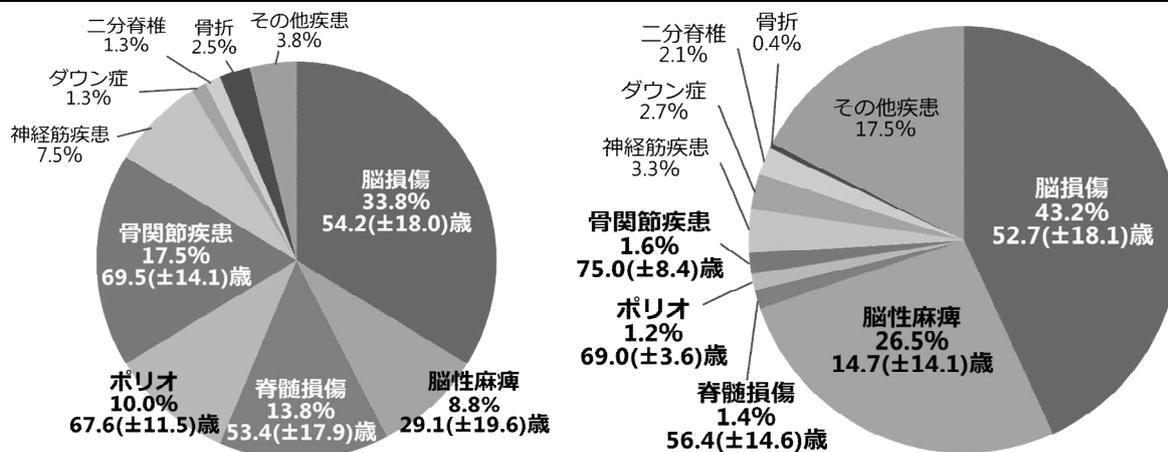


図1 診断分類【左:当センター病院 右:近隣のリハセンター(6施設合計)】